

時津町は「^{うちどく}家読」を推進しています

たまには テレビをけして

^{ようじむ} 幼児向け 2024年 ^{ねん} ^{なつごう} 夏号



「ともだちともる」

内田 麟太郎/文 黒井 健/絵 （文研出版）

ちいさなアマガエルと、おおきなウシガエル。^{おな}同
じカエルの仲間のようにだけど、お互いになかなか^{こえ}声
をかけられません。それでふたりは、時々寂しくな
ってなきました。

とうとうこらえきれなくなったウシガエルは、
^{ゆうき}勇気を出して「あのしまへ、あそびにいかない
か？」とアマガエルに^{こえ}声をかけました。

じんわりと、^{こころ}心^{あた}が^{えほん}温まる絵本。

^{うちどく}家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本に
ついて話す。これが「うちどく（家読）」です。
難しいルールは要りません。
家族みんなでルールを決めてはじめてみま
しょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさん
やおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい
時間を過ごしましょう。



「しごとのどうぐ」

三浦 太郎/作 （偕成社）

^{どうぐ}道具がたくさん^{えが}描かれたページをめくると、
その道具を使う^{どうぐ}職^{つか}業^{しよくぎょう}の人が登^{ひと}場^{とうじょう}します。大工^{だいく}
さん、仕立て屋^{した}さん、コック^やさんなどなど。知^し
っているようで知らない道具もたくさんありま
すよ。絵本^{えほん}を見ながら、様々な^{さまざま}職^{しよくぎょう}業^{ぎょう}につい
て、親子で楽しくお話し^{おやこ}しまし^{たの}しょう。



「なにができる？」

キボリノコンノ/さく （PHP 研究社）

^つ積み木^きみたいな四角い木^{しかく}が一つ。「とんとん、
かんかん、ぎこぎこ、さくさく」なんとびっく
り、プルプルのゼリー^きができあがり。他にも、
木^{ほか}から作^{つく}られたとは思^{おも}えない、じゅくじゅくや
ふわふわの食^たべ物^{もの}に大^{だい}変^{へん}身^{しん}！

^{つぎ}次はなにができるのだろう？ワクワクする
^{えほん}絵本^{ほん}です。



「あめがふってきたよ」

メアリー・サーフォソ/文 ケイコ・ナラハシ/絵
木坂 涼/訳 （徳間書店）

^{あめ}雨^ひの日はきらい？外^{そと}であそべないから？じ
ゃあ、耳^{みみ}をすましてごらんなさい。雨^{あめ}はいろ
んな音^{おと}をもっています。「ぽつぽつ」「ぴちゃ
ぴちゃ」。やねにあたって「とんとんとん」。
^{みず}水^{あめ}たまりになって「じゃばーっ」。

ね、雨^{あめ}ってとてもおしゃべりでしょう？
雨^{あめ}の^ひ日^{すこ}が少しだけすきになるかも！



「たすけてー」

りとう ようい/作・絵 （金の星社）

イボイノシシのかあちゃんが、サバンナの
^{がいてき}外敵^{かわい}から可愛^{ひき}い 2匹^この子^{まも}どもを守るために
^{だいふんとう}大奮^{ふん}闘^{とう}。

ハイエナにチーター、おまけにワシまで。
^{つぎ}次^{つぎ}から次^{おそ}へと襲^{おそ}ってくるピンチ。どうするか
あちゃん！ダイナミックでユーモラスな^え絵^え
に引き込まれます。



「ガンピーさんのふなあそび」

ジョン・バーニンガム/さく みつよし なつや/やく
（ほるぷ出版）

ガンピーさんが^{こぶね}小舟^こにのっていると、子ども
やたくさんの動物^{どうぶつ}たちが乗^のり込^こんできました。
ネコ、ウサギ、ヒツジ、ページが進^{すす}むごとに
^{どうぶつ}動物^ふが増^{こぶね}えていき、小舟^{こぶね}は満^{まん}員^{いん}に。白^{しろ}黒^{くろ}とカラ
ーの挿^{さし}絵^えのコントラストがおもしろいです。
^{なつ}夏^{なつ}にぴったりなふなあそび。ラストは、こう
ご期待^{きたい}！

とぎつちようりつとぎつとしょかん
発行：時津町 立時津図書館